

番号	分類	意見概要
1	基本理念 基本目標	基本理念の「住み慣れた地域の中で、誰もが」という表現に違和感がある。福岡市は流動性が高いまちであるため、「地域」とは「住み慣れている人だけ」という感じではなく、「そこに普通に住んでいる人が、いろいろな方法で地域に関わることができる」というビジョンにしていけることがよいのではないかな。
2		「誰もが」の中身が高齢者中心になっていないか。「元気高齢者をはじめ」という表記を残すなら、「様々な世代の人が」という表記を加えるべき。若者やシングルマザーなどもあるので表記を工夫してもらえればと思う。
3		地域福祉について、子どもに対する概念が薄いのではないかな。高齢者に偏っている気がする。少子化社会の中で、地域でどのように子どもを育成するのかという視点があるとよい。
4		地域分野は、ほかの保健福祉全体に密接な関係がある。全体と地域分野の各論をつなぐ前文のようなものを検討していただきたい。赤ちゃんから高齢者まで一貫して地域に関わらざるを得ないし、そのなかでいろいろな問題が地域課題として出てくるというイメージを前文のところに書き込んでいただきたい。
5		誰もが「地域を構成する一員として」が気になる。ひとりひとり自分らしくで良いのではないかな。地域が主体となっていることが気になっている。 地域が、自治協議会のイメージしかないからそのような議論になる。「地域」の意味は、自治協以外にも、地域団体や企業、NPO、社会福祉法人なども入っているので、いろんな担い手の人たちが一緒に支えてつくっていくというニュアンスになれば、もっとイメージが違ってくると思う。
6		「地域を構成する一員」という表現は、地域の責任や役割を果たすという意味あいだと思う。そういう意味では文言が残った方がよい。
7		コミュニティ形成という表現を使わずとも「地域での福祉活動が難しい」という表現でもよいのではないかな。名詞化すると主語がわからなくなったり、抽象度が高くなりわかりにくくなる面もある。
8		自治協議会、自治連合会の表記については、校区にそれぞれ2つあるように見えるため、自治連合会の記載はなくてもよいのではないかな。
9		福岡市は極めて定住率が低い都市であり、地域活動に対する関心が弱く、地域活動につなげられない。できるだけ住み慣れたところで活動したいという狙いはあるにしても、基本目標でもう少し意図的に取り組むべき。
10		地域活動に若者がいるだけで、みんなのテンションが上がる。全員ががっつりした担い手にならなくても、興味、関心、立場などに応じて地域活動に関わり方は当然変わってよい。気軽に、ある意味適当に地域に関われるようなこともきちんと視野に入れた形で考えているということが基本目標のあたりから見えてくるとよい。
11		計画の位置づけについて、社会福祉法には社会福祉協議会のことも規定している。社協との連携を記載していたほうがよいのではないかな。市社協は地域福祉活動計画を作っている。
12		「地域づくりを目指す」という表現は、地域づくりをすることがすべて地域福祉になるようにとれる。活動している本人としては、地域活動していることが、地域福祉であることの意識がない。地域活動を支援することが、全部地域福祉につながるのか。 目的なのか手段なので違ってくる。「地域づくりを目指す」というのは違うかもしれない。どのような内容の地域にしたいのか。様々な課題に対して、どのようにするのか。あえて、地域づくりという言葉を使わない手法もあると思う。

番号	分類	意見概要
13	基本目標1	日常生活圏域も地域包括支援センターも市民にはよくわからないと思う。どちらかを()書きで中学校校区と書いたほうがよい。 校区ではなく、福祉区を設定しているところもあるが、福岡市の人口規模や地域の多様性を考えていかなければならない。他の市町村の例を適合することも難しいと思う。 後々、圏域については課題になると思う。現段階はこのままでいいと思うが、誰がプレイヤーとなるかが、今後、課題になってくると思う。
14		地域包括支援センターは、相談の内容によって適切な専門機関につないでおり、その役割についても書いたほうがよいと思う。
15		近所付き合いには男女差がある。男性の引きこもりが課題であり、男女の地域への取り組みは明確にしたほうがよい。自治会長など肩書きがあると男性が多いが、実際に地域で活動しているのは女性である。
16		地域の人とはほかの地域での成功事例を知らない。情報を共有できるようになると状況が変わると思う。
17	基本目標2	校区社協をいかに活発に地域の中で動けるような形にするかが課題である。自治協、町内会、民生委員との連携が大変重要。
18		民生委員・児童委員負担が大きい。サポートセンターの設置などの活動支援が必要である。民生委員の教育カリキュラムをつくるなど研修の充実が必要。
19		福福連携や農福連携についても団体間の連携強化ということに関連した情報を入れていただいてよいのではないかな。
20		社会福祉法の改正が今度の国会で可決され、社会福祉法人による地域貢献が義務化されるため、そこも視野にいれたほうがよい。
21		社会福祉法人の経営陣は社会貢献について何をしたらよいのか、よくわからない人が多い。メニューを提示したほうがやりやすいのではないかな。
22	基本目標3	社協において、ふれあいネットの支援やサロン活動をしており、ふれあいネットワークは7割くらいの町内会で活動している。 ネックとなっているが、個人情報をもどのように共有していくか。 また、ふれあいネットワークの活動において、町内会の集会所や空き家など集まれる場を作ってほしいと思う。
23		要援護者がサービスの受け手とだけとされるのではなく、地域の主体(担い手)となれるような表現に手直しすべき。
24		ポピュレーションアプローチが成功していればハイリスクになっていないということは確かにいえる。しっかりとそこを分けて書いていただきたいという意見だが、実は、機能的にはすごく密接に関係していると思う。

番号	分類	意見概要
25	基本目標4	14歳以下の人口が減少していき、また、人材がどんどん流出していくという危惧がある。地域分野の取り組みの視点に「福祉意識の醸成、人材育成」とあるが、この視点こそが重要であり、支える側をどのように確保していくかということが大きな柱となっていくのではないかと。しっかり明示していただきたい。
26		担い手という表現があるが、支援者、理解者、共感者などでもよいのではないかと。担い手という表現はハードルが高い。全員が全部を担わなくてよい。関わり方はいろいろある。様々な関わり方の創出などのほうがよいと思う。
27		担い手の確保という言葉が強すぎる。
28		住民参加による地域での助け合いに関するデータについて、「参加したい」が6.8%、「機会があれば参加したい」が52.8%とあるが、これは、「参加したい」＝リーダー、「機会があれば参加したい」＝フォロワーだと思う。フォロワーの数がこれだけ潜在的にいることは大変重要。地域分野の取り組みの視点の中に、「機会の提供」ということを記載したほうがよい。
29		大学が域学連携というものをかなりやっている。学生を地域に関わらせようという動きがある。このような動きがあるので、学校とも連携協定を結んでいることだし、コンビニなどとも連携協定がある中、そのような新しい動きを記載し、市民だけでなく福祉意識の醸成も図られていくことを記載してほしい。
30		大学が多いことは福岡市の特徴である。地域の担い手についても、大学がやっているところもあると思う。その点を書くともよいと思う。
31	基本目標5	何のサービスを受けたらよいのかわからない、その相談を受ける窓口があるとよい。話をしているうちに、自分がわかってくるようなプロセスがほしい。動けない人の所には出向かないといけない。役所は自分で申請しないといけない仕組みである（アウトリーチでは無い）。中間支援的なことが欲しい。
32		情報提供とあるが、個人情報の自己開示がわかるようにならないといけない。世の中では、情報メディアが多様化している。行政としてはメディアが増えていて負担が大きい。最終的には口コミである。
33		コンシェルジュという言葉ができてきている。福祉情報のコンシェルジュが求められている。福岡市については、民生委員なのか公民館職員なのか生活支援コーディネーターなのか、そのあたりを検討していく必要がある。
34		後見人について、家族から専門職に大きくシフトしているが専門職だけでは足りない。市民後見制度も触れていただくとよい。
35		地域で見守るというところでは、生活困窮者、要援護者、虐待などは地域でみれないと思う。生活困窮者に対して、どこまで地域でみるのか。どこからが専門的なことなのか。誰が、何を、どこまでやれるのかを明確にしてほしい。今の表現では地域ではこんなことまでやらされるのかということになる。
36		心のバリアフリーの意味がわからない。 バリアフリーは和製英語でありよく使うことばではあるが、世界的には使われていない。勝手にバリアを設定して、それを取り除こうとしている。具体的に何をめざすのかということになると、今は説明不足かもしれない。 心のバリアフリーについては、企業の積極的な参加が必要である。サービス業のまちとしては、社員教育としてしてほしい。
37		福岡市はアジアの中心として国際都市をめざしている。世界の住みやすい都市ランキングでも福岡市は上位にランクインしている。 コミュニケーションを大事にし、外国人も含め互いに尊重し合える人間関係を作れるまち、幸福感を抱くことのできるまちといった、グローバルな社会を目指すような表現を、地域分野のなかに明記してほしい。